

# グループ紹介

地域に根ざした活動を行っているグループを紹介します。  
掲載を希望されるグループは議会事務局（TEL 820-5630）までご連絡ください。



～ 年に1回の地域交流を大切に ～

## 地域の活動グループ『新宮苑とんど会』



▲今年のとんど作り（中列左から6番目鳥井会長）

寒さ厳しい1月、町内では多くの地域でとんどが行われます。

### ■新宮苑団地のとんど

熊野町東部、新宮苑団地そばの休耕田。ここでも30年以上前から、団地住民によるとんど作りが行われています。毎年当日には、150人も人が集まります。和太鼓の演奏を皮切りに、とんどが開始。参加者には焼肉や焼き鳥などが自由に振舞われ、子供達にはお菓子も用意されています。

もちろん多くの経費がかかりますが、会費等は一切集めていません。団地自治会からは縄代をもらいますが、あとは、とんど会による1年間のアルミ缶集めの収益によるもの



子供たちによる和太鼓

たくさんの人が参加

スタッフも大忙し

町内飲食店も協力

子供たちにも大切な行事

燃え上がるとんど

のです。

鳥井会長は、「なるべく多くの人に来られるように、来やすうしとるだけです。」の一言。地域の交流を大事にしたいという思いが伝わってきます。

### ■存続の危機

昔は団地自治会でとんどを行っていましたが、過去一度途絶えたことがありました。その時のアンケート調査では、続けたいと願う回答は3割程度、また当時から、団地住民が集まる機会は減る一方で、大勢が揃うのは町内一斉清掃ぐらい。団地の高齢化も進みます。

「このままではいけない。」

そのとき立ち上がった団地内の数名のメンバー、鳥井会長もその中の1人。団地自治

会から切り離し、「新宮苑とんど会」を立ち上げました。

肝心の木々の調達、会場の確保は、近隣の山林、田の所有者の方の協力をいただいています。とんど作りを団地内に呼びかければ、30人は集まります。

作業中のある方が言いました、「会長の熱意にみんな付いて行くんよ。」

### ■地域に大切なこと

「年に1回でもみんなが直接顔を合わせる、これが大切じゃろう思います。」と鳥井会長。

「とんど」という伝統文化が、地域づくりの原点を教えてください。地域づくりの原点を教えてください。

### ■問合せ先

代表 鳥井 潔（新宮）  
電話 854-1386

## あとかき

### 節分と豆まき

2月3日は「節分（せつぶん）」。「季節を分ける」つまり季節の節目で本来年4回でした。ところが日本では、立春が1年の始まりとして尊ばれ、春の節分のみとなりました。

節分には豆をまきますが、起源は中国と言われています。豆は「魔滅（まめ）」に通じ、無病息災を祈る意味があります。

昔、京都に鬼が出たとき、毘沙門天のお告げで大豆を鬼の目に投げて退治できた話から、「魔の目（魔目＝まめ）」に豆を投げ「魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通じるということです。

不景気の鬼を退治できるような大きな大きな大豆はありませんかね。

藤本 哲智

次の定例会は、  
**3月10日(水曜日)**  
開会を予定しています

議会だより題字  
**世木田江山さん**

表紙写真  
**1月9日スター駅伝(町民グラウンド)**